



7月の生活目標

あとしまつをしっかりとしよう

探究的な学びで何が変わるのか？ 何を変えられるのか？

校長 山下 裕司

昨年とは違って、梅雨空の続く毎日。その影響を一番受けるのは水泳学習です。今年度から三小では、「自立した学び舎 三小スタイル」の看板を掲げ、学年協働で全教科の全単元・領域の単元開発を組織目標に、校内研究を中心に日々取り組んでおります。

体育の単元である「水遊び」「水泳運動」も同様に単元開発いたしました。今までと大きく違うのは、「探究する学び」です。何を探究するのか？ それは、子どもたち一人一人が、問いをもち水の中での運動を題材に夏季限定の単元を見通して「泳ぐ」ことを探究するのです。

低学年は、「運動遊び」である様々な「水遊び」を通して、自然に水に慣れ、自分で運動遊びを選択したり、その場で工夫して運動したりすることが探究になります。夢中になって取り組めること自体が探究なのです。泳ぐことができるできないは関係なく、仲間と協働して水遊びを楽しみます。その仕掛けが、一つ一つの水遊びなのです。「魚取りゲーム」「みんなでアート」「プールボール」等、子どもたちの探究心は止まりません。

中学年は、「浮いて進む運動」「もぐる浮く運動」として、「変身浮き」や「け伸び」「初歩的な泳ぎ」等を仲間とともに、どうすれば、うまくできか？ を探究します。人間は、浮こうと思うと体に力が入り、沈んでしまいます。また、潜ろうと思うと体が浮いてしまいます。逆の心理です。しかし、人間が浮いたり、潜ったりするには、“こつ”があるのです。その“こつ”を仲間と見付け、気付き、共有するのです。今までは、多くが教師から教わり、やらされていたのではないのでしょうか。教師が教える前に子どもたちが発見するのです。これこそが、探究です。

高学年は、泳法「クロール」と「平泳ぎ」を中心に、「安全確保につながる運動」に取り組みます。基本の泳法については、「プル」「キック」「プレス」それぞれの場面においていくつかの視点をもって、その運動のポイントを探ります。例えば、クロールの「プル」手のかきでは、かき始めの手形、どのように描きながら手をかくか、どのように水をかくか、水から腕を上げるときは、どのように腕を回すか、かく腕と逆の腕は、かいた後の手をどの角度で入水するか等、細かい視点で運動のポイントを見付けます。このとき、4人組のカルテットで、泳ぐ子、水中動作を見る子、前から見る子、後ろから見る子とローテーションします。

中・高学年ともに、泳力の差は関係ありません。今自分も持っている力で、協働探究するのです。そのあとに「チャレンジタイム」として、個々の泳力を高める目標をもってチャレンジします。その際に、目安表を使います。検定ではありません。できるかどうかを自分で試すことが大切で、検定のように人が終わるのを待つのではなく、場に応じて何回でもチャレンジするのです。この目安表は低学年もあります。

探究的な学びで何が変わるのでしょうか？ 私は、子ども一人一人が内面にもつ力を引き出せると考えます。このことにより、今はまだ泳げなくても、いつか必ず泳げる日が来ると。拙速に泳力を身に付けさせる水泳指導よりも、自ら運動のポイントを発見する探究する学びの方が、誰でも取り組むことができ、一人一人の無限の伸びしろを伸ばします。子どもたちの取り組む目が、前向きな姿が変わるのです。

1学期、三小の学びの改革の進捗状況をHPの校長ブログでお伝えしてきました。まだ、スタートしたばかりです。2学期以降も確実に子どもの学びを変えていきます。

7月行事予定

月	火	水	木	金	土
3 B 避難訓練（防犯訓練）	4 児童朝会（5・6年） 保護者会（2年） 保護者会（5年）	5 集会	6 社会科見学（3年） 保護者会（1年） 保護者会（6年）	7 朝読書	
10 B 委員会	11 児童朝会（3・4年）	12 音楽朝会	13 なかよしG	14 朝読書 社会科見学（5年）	
17 海の日	18 児童朝会（1・2年） 大掃除	19 給食終	20 終業式 4時間授業	21 夏季休業日始	
24 夏季水泳学習 個人面談始	25 夏季水泳学習	26 夏季水泳学習	27 夏季水泳学習	28 夏季水泳学習	
31 個人面談終					

※1 行事や学習の予定は、感染状況等により変更がある可能性があります。ご承知おきください。

※2 1年生の授業時間については学年便りをご覧ください。

川上村自然教室

第6学年担任

6年生は、5月31日（水）から2日（金）までの2泊3日、長野県の川上村にある三鷹市川上郷自然の村へ行ってきました。

宿舎でのナイトハイクやアドベンチャーツアーでは、活動班の友達と協力し様々なミッションに挑戦しました。入浴や食事、布団の準備・片付け等、部屋での活動は、生活班の友達と声を掛け合い時間を意識して行いました。行き山梨県の高根クラインガルデンでは、郷土料理のほうとう作り体験、帰りの滝沢牧場では乳絞り体験と、学校ではできない特別な経験をする事ができました。

当然、「予定通りにいかないこと」「揉め事が起こること」「叱られること」等、3日の間にはたくさんの失敗がありました。しかし、子どもたちは、その何倍も楽しみ、成功からも失敗からも多くのことを学びました。「お互いの意見をしっかり聞き合うこと」「責めずに励まし合うこと」「あきらめずに挑戦すること」「喜びを分かち合うこと」等、子どもたちが書いた振り返りを読むと、大事なことに自分たちで気づき、自分たちの成長を実感できていることが分かります。「雨は降ったが最終日も楽しく過ごした。」「雨の中、先生方や保護者の方が出迎えてくれて嬉しかった。」と、3日目に降ってしまった雨さえ、子供たちが前向きに受け止め、感謝の気持ちを感じていることにも感心しました。

「これからの学校生活の中で、できなかった課題に向き合っていきたい。」「運動会等の行事でも友達と協力していきたい。」という言葉もありました。この学びを自然教室限定の特別な思い出にするのではなく、これからの毎日に役立てることで、一人一人の学校生活をより充実したものにしてほしいと思っています。

校内研究

研究主任

今年度の研究は、「児童の文脈で学習できる単元開発～必要感のある学習環境づくりを通して～」という研究主題で進めています。普段の授業の「単元開発」とともに、「マイプラン学習」「学び合い学習」等にも取り組んでいきます。6月からは、研究授業が始まり、授業を通して活発な意見交換とともに、講師の先生から今後の研究の課題についてもご指導いただきました。2月の学校公開では、全校一斉の研究授業を行います。子供たちが主体的に取り組んだり、友達と協働しながら学びを深めたりすることを通して、自己の学び方を調整する力をつけ、自立的な学び手として成長していけるような研究にしていきたいと思えます。

道徳授業地区公開講座

道徳担当

5月20日(土)には、講演へのご参加、そして道徳授業にご参観いただきありがとうございました。子どもたちそれぞれが授業を通して道徳的価値に向き合い、より良い生活につなげていけるよう、今後も各学年での学びを大切にしていきます。

【水難事故の防止について】

楽しいはずの夏休み、河川等での水難事故を起こさないために、ご家庭において次のことをご注意ください。◎児童だけで河川に行かないこと◎保護者や大人が同行したとしても、急な増水や川底の深みに注意すること◎ライフジャケットを着用すること

三鷹中央学園の窓

「三鷹中央学園」通信

新パワーアップアクションプラン

今月、CS委員会のパワーアップアクションプラン改訂担当の方から各校の子どもたちに向けてリニューアルしたパワーアップアクションプランの紹介がありました。現在は「はぐくみプラン」と仮の名前がついていますが、子どもたちから名前を募集して、より親しみやすいものにしていこうというお話でした。パワーアップアクションプランは地域・学校・家庭が連携して取り組める、より良いものに生まれ変わろうとしています。子どもたちがどんな名前を考えるのか結果が楽しみです。

学園各校通信「七小」

社会科見学に行ってきました！

七小では、3年生が6月16日（金）にジブリの森美術館と大沢の里へ社会科見学に行ってきました。子どもたちは、社会科の授業で調べていた三鷹市の伝統的な施設や芸術に直接ふれ、三鷹市への愛着や興味をより一層もつ機会となりました。今回の学びをこれからの学習に生かしていきます。

学園各校通信「四中」

職場体験を実施しました！

2年生では、6月6日（火）から6月8日（木）の3日間で職場体験を実施しました。保育園で園児と一緒に遊んだり百貨店や商店で品出しや袋詰めを行ったりするなど、とても貴重な体験をしてきました。体験の中で、働くことの大変さややりがいを感じ、将来について深く考える機会になりました。